

B 会場

第1部 在宅支援と地域連携・全般的なケア（5月19日（木） 10:30~11:30）

座長 石川県 医療法人積仁会 介護老人保健施設あつぷる

永山 珠代

- 1 理学療法士として情報提供を行い在宅復帰できた一例
～家族に状態を理解してもらうために～

心疾患を既往歴に持つ女性に対し、リハビリで体力向上を行い在宅復帰した症例について。家事動作を評価し動作方法、運動前後のバイタル変動を在宅復帰時に家族に説明することで症例に対する身体状態を理解してもらい無関心さ軽減できた。

富山県
介護老人保健施設 エルダーヴィ
ラ氷見
理学療法士 高宮 啓伍

- 2 じゃらんブログ開始しました。
アンケートから分かった家族の思い

利用者様の一日の様子を送迎時に口頭で報告していたが、より詳細な情報を発信できないかと考え、法人のブログ投稿を開始した。アンケートを実施した結果、ブログ投稿は、家族様の将来不安を軽減する可能性があると考えられた。

福井県
通所リハビリテーションじゃらん
介護福祉士 平口 陽子

- 3 ロバ隊長を地元の子供たちへ
通所リハビリにおけるご利用者の生きがいの創出

高齢であっても自分が人の役に立てるという思いは、自己満足度が高まり日常生活への意欲が芽生える。通所リハビリでのマスコット人形作りが地域貢献活動となり、ご利用者の生きがい創出に繋がった為、報告する。

福井県
介護老人保健施設 アルマ千寿
通所リハビリテーション
作業療法士 川端 照和

- 4 スピーチロック防止の取り組みから見えてきたもの
～身体的拘束等及び虐待自己点検チェックシートの結果を用いて～

身体的拘束等及び虐待防止対策の一環として実施しているチェックシートの結果から、スピーチロック防止の取り組みの必要性がわかった。8ヶ月間3つの取り組みを行い、再度実施したチェックシートで大きな改善を認めた。

愛知県
介護老人保健施設さなげ
介護福祉士 山下 仁志

- 5 マグロを夢見て

入院になり食事拒否から胃瘻増設、3か月後には両腎臓からの腎瘻増設となった方が、関わりの視点を増やした事により意欲向上している事例を発表します。

石川県
通所リハビリテーション事業所
ケアリス太陽
介護福祉士 太田 真実
介護福祉士 田辺 智恵
生活相談員 瀬戸 亮真

- 6 利用者に対する拘縮予防
～介護職でもできること～

下肢に拘縮があり移乗やオムツ交換時に痛みを訴える方がおり、少しでも痛み・抵抗の軽減をすることができないかと考えた。そこで、介護職でもできる体操を行い、痛み・抵抗の軽減や関節可動域の維持を目指し、拘縮予防の体操に取り組んだ。

静岡県
介護老人保健施設 三方原ベテル
ホーム
介護職 石橋 昇汰

- 7 口腔衛生管理加算を算定するまでの取り組み
～支援相談員と訪問歯科との連携～

当苑では歯科医師、歯科衛生士が定期的に訪問し歯科治療、口腔ケアを実施する体制はできていたが、口腔衛生管理加算を算定するまでには至っていなかった。同加算を算定できるまでの訪問歯科との連携内容、支援相談員としての役割、また、同加算を算定する際の課題について報告する。

石川県
介護老人保健施設山中温泉しらすぎ苑
支援相談員 加藤 秀之介

B 会場

第 2 部 食事ケア・整容ケア（5 月 19 日（木） 11:30~12:30）

座長 石川県 金沢春日ケアセンター

水口 祐子

-
- 1 栄養部門での新型コロナウイルス対策
アンケート調査報告と課題
- 石川県
介護老人保健施設 美笑苑
- 令和 2 年 6 月に栄養部門での新型コロナウイルス対策についてアンケート調査を実施した。その結果と課題を報告する。
- 管理栄養士 三牧 美由紀
-
- 2 管理栄養士が口腔訓練に取りくみました
見えてきた成果と課題
- 岐阜県
介護老人保健施設共寿
- 少しでも長くおいしく食事ができるように嚥下機能の低下した入所者に対して、医師でも言語聴覚士でもない管理栄養士ができることとして、2018 年から、機能維持の為に口腔訓練と経口摂取に取り組んだので報告させていただきます。
- 管理栄養士 森本 美和
-
- 3 口腔ケアへの取り組み
～ 疾患予防、身体機能の維持・向上を目指して ～
- 福井県
介護老人保健施設 シルバーハイ
ツ武生
- 誤嚥性肺炎の既往症がある方や口腔内に問題症状がある方に対して、ただ単に汚れの除去だけでは無く、マッサージや口腔機能訓練を含めた総合的な口腔ケアを実施し、得られた成果についてまとめたものです。
- 介護福祉士 山本 哲郎
-
- 4 「おいしいね」が聞こえる場所に
今、私たちができる事
- 岐阜県
介護老人保健施設 アルマ・マータ
- 食事委員会は多職種で構成され、ご利用者に食事を楽しみにして頂けるよう、毎月話し合いを行っています。このたび試行錯誤し取り組んだ活動について報告いたします。
- 管理栄養士 森 恵子
-
- 5 誤嚥性肺炎ゼロを目指す、摂食嚥下委員会の活動
誤嚥予防が出来ている一事例を通して
- 富山県
老人保健施設 ちょうろく
- 当施設では誤嚥性肺炎ゼロを目指し、2021年に摂食嚥下委員会を立ち上げた。今回、誤嚥性肺炎を繰り返している事例に対して、委員会を通して多職種でかかわった。この事例を通して委員会活動を報告する。
- 看護師 田中 美香子
-
- 6 「適切な食形態での食事提供への取り組み」
嚥下調整食 2021 を参考にし
- 静岡県
介護老人保健施設ハイマート有玉
- 安全・安心な食支援において嚥下機能に合わせた個別性が高い食事形態での提供に多職種協働で取り組んでいます。「嚥下調整食 2021」を参考に当施設の食形態の分類を整理してみたいと思います。
- 管理栄養士 牧田 純子
管理栄養士 中西 知子
-

B 会場

第3部 食事ケア・栄養・給食（5月19日（木）13:20~14:20）

座長 三重県 社会福祉法人愛恵会 介護老人保健施設緑風苑

中林 厚子

-
- 1 食べるのが好きや！
最期まで口から食べられるように
- 石川県
福久ケアセンター
- 管理栄養士 北村 朋葉
- 嚥下機能の低下により、食べたくても多く食べられず、必要な食事が摂取できず低栄養となる方がいる。ご本人の食べたい思いを尊重し、必要栄養量を口から摂れるよう支援し取り組んだ事例を報告する。
-
- 2 電子カルテ導入に伴う業務効率向上と早期栄養介入
- 石川県
介護老人保健施設あゆみの里
- 管理栄養士 小谷 有希江
- 令和3年度より電子カルテへ移行となり、業務効率の向上や各種データの統計が容易になったことで、栄養ケアマネジメントにおいて早期栄養介入への取組強化に繋がった点について今後の課題も踏まえて報告する。
-
- 3 ターミナルからの回復
～自己摂取を目指して多職種で取り組んだこと～
- 岐阜県
介護老人保健施設仙寿苑
- 介護福祉士 柊 侖唯阿
- 当苑では、食事摂取の取り組みとして定期的に食事評価や多職種で話し合いを行っている。体調悪化によりターミナルケアとなったが、自己摂取ができるまでに回復した症例を交え、当苑の取り組みについて報告する。
-
- 4 経口移行への支援
認知機能低下による経管栄養離脱に向けて
- 静岡県
介護老人保健施設 富士中央ケアセンター
- 管理栄養士 若林 あつこ
介護支援専門員 金澤 公美
- 86歳 男性 独歩、認知症が徐々に進行し、経口摂取不良となり胃ろう造設。在宅復帰の目標として、バルンカテーテルが外れトイレに行ける、食事が口から摂れるようになる。施設にてバルンカテーテル抜去、経管栄養と併用し食事提供をおこない、在宅復帰つなげた事例報告。
-
- 5 終末期・看取り期の利用者に対する ST の介入
- 福井県
介護老人保健施設あじさい
- 言語聴覚士 村中 昌子
- 入所療養中の利用者で、アルツハイマー型認知症の進行に伴い徐々に ADL 低下し終末期にあった方が、脳梗塞の発症により急激に状態悪化、施設での看取りを行った。施設での ST の関わりを中心に経過報告を行う。
-
- 6 摂食不良を認めた利用者のその後の経過について
通所リハビリテーション利用者の場合
- 三重県
介護老人保健施設 嘉祥苑
- 理学療法士 眞砂 望
- 当施設では通所リハ利用者の利用中の食事動作と摂食量について、多職種での情報許容を行っている。その中で摂食量が頻繁に5割を切る13名の利用者の3ヶ月後の経過について調査したので報告する。
-

B 会場

第 4 部 レクリエーション・業務改善と効率化 (5月19日(木) 14:20~15:20)

座長 福井県 医療法人至捷会 ナイスケア木村

小池 武司

-
- 1 コロナ禍で利用者の笑顔を増やすために
利用者様の想いに寄り添った季節を感じるレクリエーションの実施
- 石川県
金沢春日ケアセンター
- 介護職 竹本 功
- コロナ禍で外出や面会制限される中、利用者様のストレス緩和と QOL の維持を目的に、季節を感じながら楽しめるレクリエーションと行事を年間通して行った。その取り組み内容と工夫について紹介する。
-
- 2 相談員業務を効率化してみた
～多職種による情報連携が充実した！～
- 愛知県
老人保健施設ジョイステイ
- 支援相談員 高原 陽介
- 支援相談員の残業時間が、他のどの職種より多い現状があった。調査によって調整会議関連に多くの時間を要していた。対策の結果、残業時間は減少した。副次効果として多職種による情報連携が充実したので報告する。
-
- 3 ユニット型老健施設で有効な業務改善の方法とは
介護現場が年間業務計画の立案と PDCA を実践した振り返り
- 石川県
介護老人保健施設 ろうけん桜並木
- 介護福祉士 近江 敦子
- ユニット型介護の個性を活かしながら、介護職が施設方針を理解し利用者・家族の思いに寄り添ったケアを提供できるよう、主体的に業務計画作成・評価に取り組んできた成長過程の紹介
-
- 4 5S 活動が発足してから 2 年間の軌跡
～5S 活動に対する職員の意識変化と見えてきた今後の課題～
- 静岡県
西山ウエルケア
- 介護福祉士 池田 百子
- 働き方改革が推進される昨今、当施設でも業務改善、職員の意識改革が行われ、5S 活動を実施している。その結果、仕事の効率化や業務の見直しが進み、利用者の生活支援に時間を設けることができ、職員の意識も変化してきた。現在の 5S 活動、今後の課題を発表する。
-
- 5 医療法人明寿会の DX その 1 「モバイルケア」について
- 富山県 アルカディア雨晴
- 医師 福田 英道
- アルカディア雨晴は 1997 年に開設した当初から、介護記事と保険請求ができるデータベースを Microsoft Access にて開発して利用してきた。2012 年からは、クラウド上でのアプリケーションに順次移行して、現在も利用している。今回は本システムの「モバイルケア」の機能について紹介する。
-
- 6 当施設の介護・看護職員の腰痛の有無と動作評価の関連について
- 三重県
介護老人保健施設 みえ川村老健
- 理学療法士 福田 佳菜子
- 当施設に勤務する介護・看護職員に対し、腰痛の有無と利用者役が車椅子座位から臥床、姿勢変換、再度車椅子移乗するまでの介護作業を想定した介助動作を評価し、その関連について調査した。
-

B 会場

第5部 在宅支援と地域連携・AI・整容ケア（5月19日（木） 15:20～16:20）

座長 福井県 社会福祉法人恩賜財団済生会 ケアホームさいせい

主任 針原 大輔

-
- 1 在宅復帰を目指すために私達の出来ること
事例を通して今後の取り組みを考える。
- 石川県
介護老人保健施設なでしこの丘
介護支援専門員 岩岡 真弓
- 令和3年度の在宅復帰状況は、4月から12月迄12名で、グループホーム5名 有料老人ホーム2名 在宅5名の状況である。入所時からの家族との連携や退所時に速やかに多職種と連携が取れないものか検討し今後活かしたい。
-
- 2 オンライン面会の現状と効果、今後の課題について
アンケート調査及び評価指標分析に基づく考察
- 福井県
介護老人保健施設 新田塚ハイツ
介護福祉士 内山 直樹
- 感染対策下での交流手段として取り入れたオンライン面会につき、家族・職員へのアンケート調査と利用者に対する評価（長谷川式・バーサルインデックス）比較により、効果と今後の課題分析を試みた。
-
- 3 お買い物クラブの活動報告
～評価と啓発活動を通してみえてきたもの～
- 三重県
介護老人保健施設いこいの森
理学療法士 東 良太
- 当施設では地域貢献、新たなコミュニティの形成、フレイルの発掘を目的とし買い物送迎サービス（お買い物クラブ）を行い、定期的な評価と啓発活動を実施した。この活動を通じてみえてきたものや課題を報告する。
-
- 4 ターンテーブルで WinWin な移乗を目指して
ご家族の介護負担軽減への取り組み
- 愛知県
介護老人保健施設 ジョイフル名駅
理学療法士 鬼頭 良介
- 訪問リハビリにて、移乗動作の介助量が大ききご利用者と介護負担感が増大しているご家族に対し、ターンテーブルを使用した移乗方法を提案・指導した。その結果、ご家族の介護負担感を軽減することができたため、報告する。
-
- 5 医療法人明寿会の DX その3 「AiSleep を用いたオンデマンド介護」について
- 富山県
アルカディア雨晴
医師 福田 英道
- 高齢者の転倒事故を減らすため、IoT、ITを活用した転倒事故の減少を目的とする各種のツールが開発され、普及してきている。AiSleepは、離床の警告だけでなく、心拍数、呼吸数をモニターでき、一晩の睡眠評価も可能なIoTデバイスである。夜間の定期巡回の代わりに、このデバイスからの情報を基に「オンデマンド介護」を行い、その結果を評価した。
-
- 6 入浴を続けていくために
これまでの支援を振り返る
- 石川県
福久ケアセンター
介護福祉士 横倉 靖子
- アルツハイマー型認知症のY氏は自宅とデイケアでの入浴を併用されてきた。その間、会議などを活用し家族とサービス担当者間で協力して支援を行ってきた。入浴にかかわる支援を振り返って報告する。
-